

緑化計画書 (自然環境保全協定資料抜粋)

1. 緑化計画の方針

緑化にあたっては、以下の点に留意する。

- 保安林の 35%を樹林地として保全する。
- 事業地西側の樹林地（主にコナラ群落）は、残地森林として現状のまま保全する。
- 事業地南側のモウソウチク群落は、モウソウチクを除去した後、造成森林として再整備する。
- 事業地東側のアキノエノコログサ・メヒシバ群落等は、造成森林として再整備する。
- 国際情報高校からは火葬場施設が視認できるため、事業地南側の造成森林に高木植栽を実施し、目隠しを行う。

なお、目隠しにあたっては、火葬場建物の高さが 11m であることを考慮し、常緑の高木を植樹帯に列状に植栽することを想定する。修景植栽の位置を、図 1 に示す。



火葬場整備イメージ

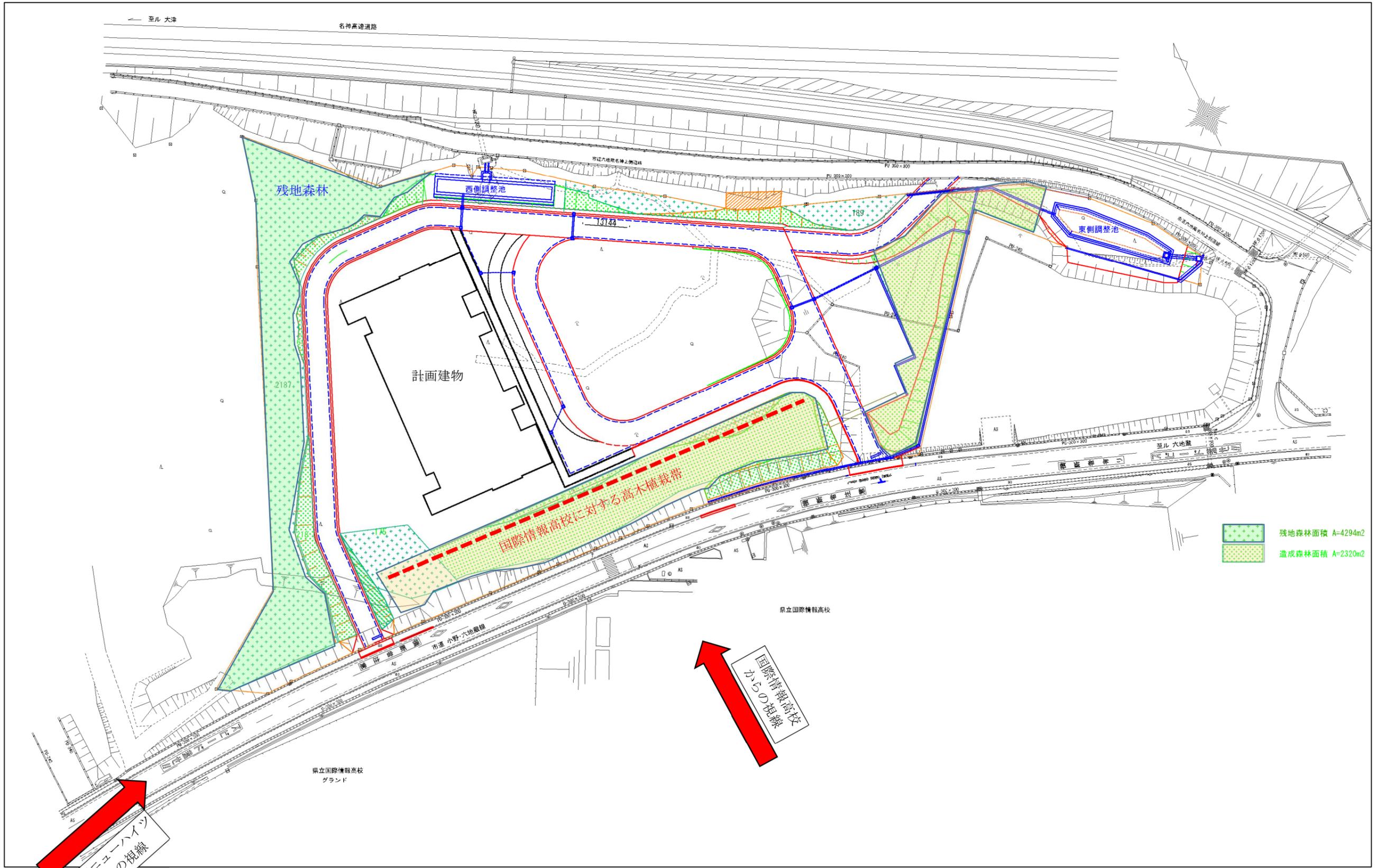


図 1 植栽計画図

2. 樹種の選定

2.1. 国際情報高校に対する目隠し植栽

南側の目隠しに用いる高木の樹種は、以下の条件とする。

1. 火葬場建物の高さ 11m 以上の高木とする
2. 一年を通じて視界を遮る常緑広葉樹とする
3. 現地の環境に適した樹種である（現地調査でも確認されている、栗東市周辺でよくみられる）
4. 植栽後の管理が容易で並木に適する
5. 入手が容易である

現地調査で確認された主な高木について、表 1 に示す。

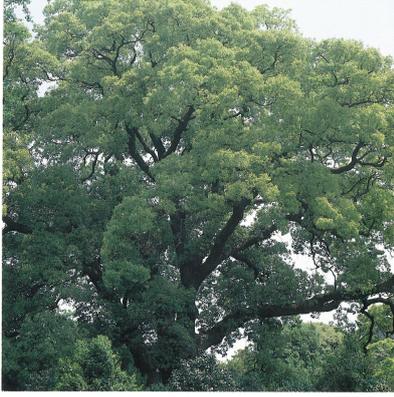
これらの種の中では、アラカシなど 7 種が適すると考えられる。

なお、自然環境保全の観点から、中低木に多様な樹種を植栽し、野生動物の生息環境の保全を図る。

表 1 現地調査で確認された主な高木と目隠し適否

樹種	常緑/落葉	広葉/針葉	目隠し適否	備考
アカマツ	常緑	針葉	×	
クスノキ	常緑	広葉	○	巨木になる
ヤブニッケイ	常緑	広葉	○	最大 15m 程度
タブノキ	常緑	広葉	○	巨木になる
ヒノキ	常緑	針葉	×	
ヤマザクラ	落葉	広葉	×	
クリ	落葉	広葉	×	
ツブラジイ	常緑	広葉	○	ドングリ
アラカシ	常緑	広葉	○	ドングリ 幹がまっすぐ伸び、並木に適する
シラカシ	常緑	広葉	○	ドングリ 関西ではアラカシがよく用いられる
コナラ	落葉	広葉	×	
ヤマモモ	常緑	広葉	○	食べられる果実をたくさんつける
ハンノキ	落葉	広葉	×	

出典：日本の野生植物（1989年2月、佐竹義輔、原博、垣理俊次、富成忠夫）



クスノキ



ヤブニッケイ



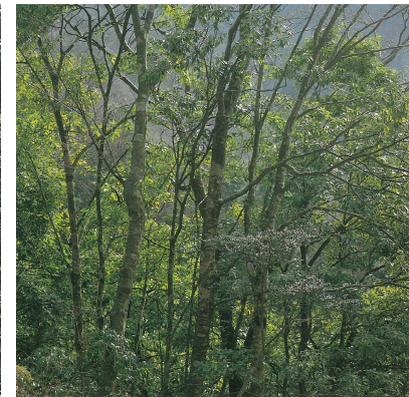
タブノキ



ツブラジイ



アラカシ



シラカシ



ヤマモモ

出典：日本の野生植物（1989年2月、佐竹義輔、原博、垣理俊次、富成忠夫）

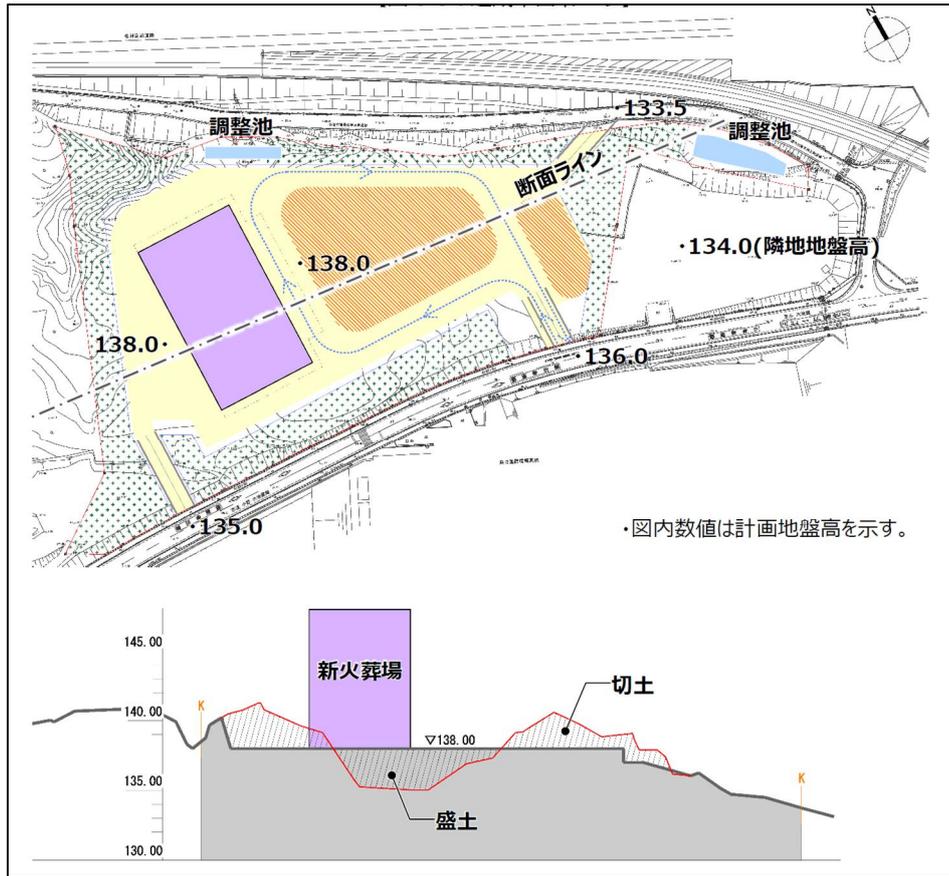


図 2 断面造成イメージ



図 3 鳥観図

2.2. 造成森林の植栽

造成森林については、国際情報高校から見て火葬場側に目隠しとなる高木を配置する。

その前列には、ヤマザクラ等の高木を配置し、その前に多様な中低木を配置する。中低木の候補を表 2 に示す。

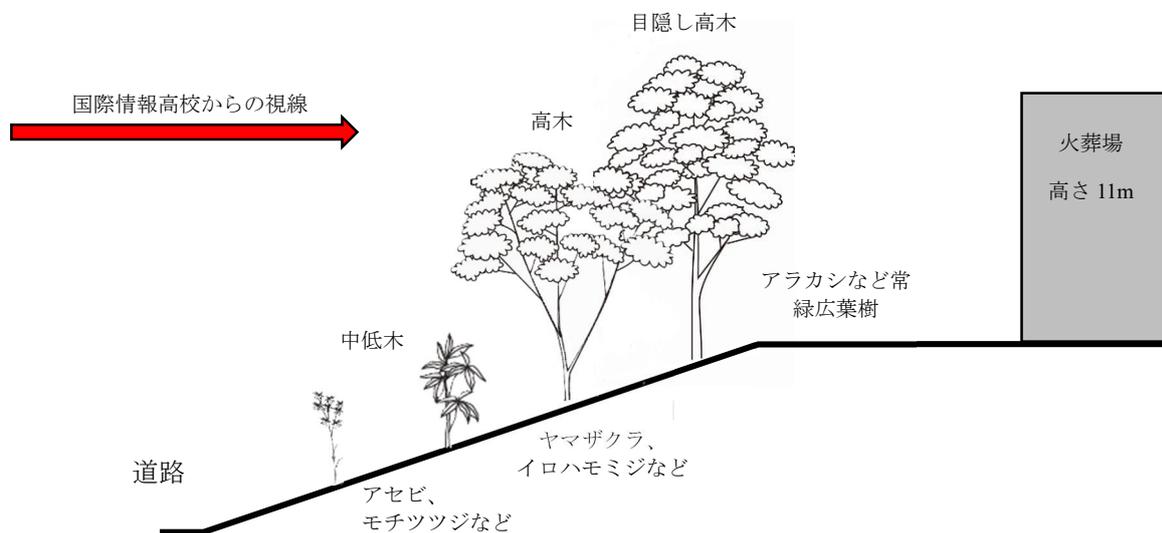


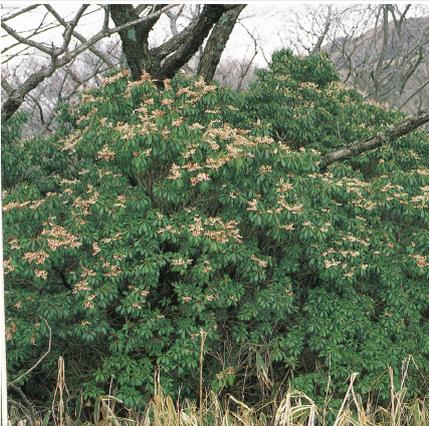
図 4 南側造成森林イメージ

表 2 (1) 中低木植栽候補

種名	備考	写真
マサキ	常緑広葉樹で樹高 1~5m 程度 開花期：6~7 月 秋に球状の薄紅色の果実をつける。生垣や庭木として利用される	
カナメモチ	落葉広葉樹で樹高さ 5m に達する。 開花期：5~6 月 秋に球状の紅色の果実をつける。生垣や庭木として利用される	

出典：日本の野生植物（1989年2月、佐竹義輔、原博、垣理俊次、富成忠夫）

表 2 (2) 中低木植栽候補

種名	備考	写真
ウツギ	落葉広葉樹で樹高 2~4m 程度 開花期：5 月下旬~7 月 白い美しい小さな花をつけ、庭木として利用される	
アセビ	常緑広葉樹で樹高 1.5~4m 程度 開花期：4~5 月 小さな花をたくさんつけ、庭木や盆栽、街路樹などに利用される	
モチツツジ	落葉広葉樹で樹高 1~2m 程度 開花期：4~5 月 ピンク色の大きな花をつけ、様々な園芸種が植栽として利用されている	

出典：日本の野生植物（1989 年 2 月、佐竹義輔、原博、垣理俊次、冨成忠夫）